

## ナレスアン大学（タイ国）より名誉博士号

1 月 25 日、タイ国立ナレスアン大学（タイ国北部に位置する学生数約 22,000 人の総合大学）から、比嘉教授が農業バイオ技術の名誉博士号を授与されました。名誉博士号授与に合わせて、翌日、比嘉教授の特別講演を同大学にて開催され、関係者及び EM ファンの方々が集まりました。講演会では、長年 EM の普及に努めたタイ陸軍のピチェット大将も講演されました。ピチェット大将は、タイ陸軍での村落復興プロジェクトやキングプロジェクト、東ティモールでの PKO 活動に EM 技術を導入した、タイ国での EM 普及の中心的な人物です（以下にタイでの EM 活動詳細を参照）。会場には、ピチェット大将の活動で EM 栽培で収穫されたキャッサバが展示され、EM による農業振興と村落発展の事例を紹介されました。また、比嘉教授は、EM を導入してからインドのシッキム州が国連の優秀政策賞を受賞されたこととお話し、タイに国際的な EM 研修が受けられる施設がある成果であると述べました。以下に授賞式及び講演会の風景です。（※授賞式左写真ナレスアン大学所属）



### タイでの EM 活動について

1989 年、タイの農家は数年にわたる自然災害により困窮を極めていました。そこで、国は農村の復興を目的として、タイ陸軍を中心とした EM 普及活動を始めました。タイ陸軍は、軍人に EM 技術を学ばせて指導者を養成し、農村にモデル農場を設立し、自給自足で生活できるシステムを農家へ指南しました。その結果、農民の生活は安定し、治安も良くなりました。現在は、タイ国東北部や南部にもモデル農場が作られており、農家向けの研修は国内外からの参加者で溢れています。

また、2011 年にタイを襲った大雨は 3 ヶ月もの間降り続き、かつてない大洪水を引き起こしました。この洪水による污水問題を解決するため、EM 研究機構の現地法人も復興支援に協力しました。被害が深刻化した町には大量の EM と EM 団子が投入され、政府と陸軍は EM の使用説明書を配布し、各地で EM 活用の勉強会も開催しました。この洪水後の対策により悪臭は激減し、懸念されていた不衛生な水に触れることによる感染症の報告もありませんでした。当時、洪水被害地の北端に位置していたピサヌローク県の陸軍施設内に EM 供給基地が設置されたこともあり、同県での EM 活用が広まりました。

農業、環境だけでなく、水産分野でも EM 活用されています。自然循環型システムによるエビ養殖が可能となり、養殖池から排出される水や泥は、滞留池で EM を使って浄化された後、また養殖池へと戻ります。水が 100% 再利用することが自然循環型可能となり、エビの生産量が向上しています。

【寄稿：EM 研究機構・海外部】

